

「青春一回帰」

三七回卒「母校愛のリレー」

実行委員長

高37回 岩垂 彰



まだまだ先のように思っていた「愛リレー」。あつという間に本番を迎えました。私たち「みんなの会」は、記念事業として「県陵生時代に描いた夢と今」についてのパネルディスカッションをしました。事前に、現役県陵生にはアンケートのご協

力いただきました。今も昔も、夢と現実のギャップに揺れ動いているのは変わらないと感じました。

夢をかなえた人。夢の途中の人。方向転換した人。新しい夢を見つけた人・・・三十歳以上年齢は違っても県陵生であったことに間違いのない仲間です。討論の中から、たくさん可能性が見出されたことと思います。

また、事業の一環として、現役応援団の諸君と交流する機会が持てました。時代とともに変わりゆくもの。変わってはいけない「県陵らしさ」。いつまでも「県陵らしい県陵」であって欲しいと思います。時代とともに変化してしまつた応援の形態。はるか昔に応援団に所属した私からのリレーの襷。彼らはきつと受取ってくれたと確信しています。そしていつまでも伝承されることを切望します。



パネルディスカッション



高37回生よりエール

記念事業を展開するに当り、諸先輩方を含む多くの同窓生の皆さん、学校の先生方、現役県陵生の皆さんにお力をお借りしました。この場をお借りして心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。では、母校 松本県ヶ丘高等学校と同窓会の益々のご発展を願つて（）
フレックフレック！県陵！
フレックフレック！県陵！

県陵三九会に出席して

高16回 木藤

宗子



「ぜひ出席して下さい。待ってますよ。」と、元気な明るい声の電話が入った。今年七十歳の同窓生だ。久しぶりに私の心が踊り出した。五十年前の顔が幾つか浮かんだ。

昭和三十九年三月、県陵の門を踏み出した一人一人の五十年。戦争を知らない子供達が、日本の平和と高度経済成長の歩みと共に年を重ねてきた五十年。東京オリンピックの年に卒業。そして二度目の東京オリンピックを五年後に迎えるようとしている。

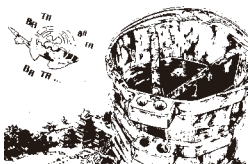
私にとつて、県陵の三年間は最高に楽しい時代だった。自分の本音を出せた学校。女子が少ないのも時には楽しく、授業をサボって映画館へも行った。コンパも楽しいひとときだった。仲間同士の論争もした。自然に絆が深くなっていった県ヶ丘高校という場所。

時代も移り変わり、私達も一人一人の人生の変転の中で、「若い」の時代に入った。

この五十年の時の流れは、経済も科学も情報も大きく進化し



松本県ヶ丘高校 第16回卒業同期会 県陵三九会総会



白虹会 2年 杉本 明恵



白虹会 2年 百瀬 小夏